

© WPI / DERWENT

TI - Seat for drawer type cup holder used in motor vehicle - has concave part with cushion body inserted into lengthy cushion

PR - JP19940292316 19941101

PN - JP8127279 A 19960521 DW199630 B60N3/10 004pp

PA - (HINM ) HINO MOTORS LTD

IC - B60N3/10

AB - J08127279 The seat consists of a concave part (4) provided in bearing surface attached with a cushion body (5). The bearing surface adjoins a lengthy cushion (3).

- A pair of cup holders are provided in the cushion body which is inserted into the lengthy cushion.
- ADVANTAGE - Simplifies structure. Avoids hindrance to usage of air bag at instrument panel. Prevents damage to outer portion of seat.
- (Dwg.1/5)

OPD- 1994-11-01

AN - 1996-295292 [30]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-127279

(43) 公開日 平成8年(1996)5月21日

(51) Int.Cl.<sup>9</sup>

B 6 0 N 3/10

識別記号

A

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 4 F D (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平6-292316

(71) 出願人 000005463

日野自動車工業株式会社

(22) 出願日 平成6年(1994)11月1日

東京都日野市日野台3丁目1番地1

(72) 発明者 鋤田 卓嗣

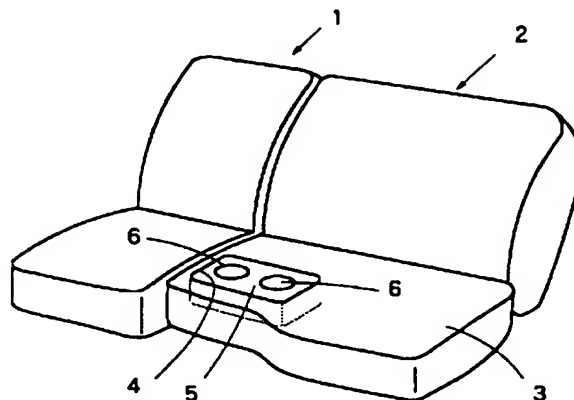
東京都日野市日野台3丁目1番地1 日野  
自動車工業株式会社内

(54) 【発明の名称】 自動車用シート

(57) 【要約】

【目的】 シートの居住性および外観性の悪化をともなうことなくエアバックの作動にともなう不具合を解消できる自動車用シートを提供する。

【構成】 車幅方向ほぼ中央部においてシートクッション3の座面に凹部4を設ける。シートクッション3と協同して座面を形成するクッション体5を凹部4に表裏反転並びに挿脱可能に嵌着する。クッション体5の裏面にカップホルダ6を設けたことにより、通常はシートクッション3と協同して座面を形成するクッション体5を表裏反転させればカップホルダ6が出現されるようにした。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 車幅方向ほぼ中央部において座面に凹部を設けたシートクッションと、前記凹部に表裏反転並びに挿脱可能に嵌着されて前記シートクッションと協同して座面を形成するクッション体を備え、該クッション体の裏面にカップホルダを設けたことを特徴とする自動車用シート。

【請求項2】 クッション体を凹部に着脱自在に取り付けたことを特徴とする請求項1に記載の自動車用シート。

【請求項3】 クッション体を凹部の開口縁に開閉回動自在に取り付けたことを特徴とする請求項1に記載の自動車用シート。

【請求項4】 クッション体より平面投影面積が小さい小物入れボックスを前記凹部の底面に凹入形成したことを特徴とする請求項1～3のいずれかに記載の自動車用シート。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は自動車用シートに係り、特に、乗員の拘束手段としてエアバックを採用した場合にもカップあるいはボトルなどを確実に保持できるようにしたカップホルダを組み込んだ自動車用シートに関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】 従来の自動車においては、インストルメントパネルに引き出し式のカップホルダを組み込み、あるいは、実開平3-16531号公報に見られるようにセンタシートバックの背面にカップホルダを設けるようにしたものがある。

【0003】 しかしながら、前者のようにインストルメントパネルに引き出し式のカップホルダを組み込んだものにおいては、パッセンジャシートに設けたエアバックの作動時に、該エアバックによってカップホルダ上のボトル類がはね飛ばされ、あるいは、カップホルダもしくはボトル類との接触によってエアバックが破損する可能性がある。また、後者のようにセンタシートバックの背面にカップホルダを設けるようにしたものにおいては、カップホルダの使用時にセンタシートバックをシートクッション上に倒伏させる必要があるためにシートの構造が複雑になるとともに、外観性および居住性が低下する可能性がある。

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】 本発明は上記実情に鑑みてなされたものであって、シートの居住性および外観性の悪化をとまなうことなくエアバックの作動にとまなう不具合を解消できる自動車用シートを提供することを課題としている。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】 上記課題を解決するため

に本発明は、車幅方向ほぼ中央部においてシートクッションの座面に凹部を設けるとともに、前記凹部に表裏反転並びに挿脱可能に嵌着されて前記シートクッションと協同して座面を形成するクッション体を設けている。そして、前記クッション体の裏面にカップホルダを設けたことを特徴としている。

【0006】 また本発明は、クッション体を凹部に着脱自在に取り付け、もしくは、クッション体を凹部の開口縁に開閉回動自在に取り付けることができる。さらに本発明は、クッション体より平面投影面積が小さい小物入れボックスを凹部の底面に凹入形成することができる。

## 【0007】

【作用】 上記のように構成した自動車用シートにおいて、カップホルダを必要としない状態においては表面を上にしてクッション体を凹部に嵌合保持させておく。すると、クッション体がシートクッションとともに座面を形成するために、車幅方向中央部を通常のシートクッションとして利用することができる。

【0008】 また、カップホルダを必要とする場合はクッション体を凹部から抜き出して表裏を反転させる。すると、クッション体の裏面が露出されてカップホルダが出現されるために、カップあるいはボトル類を安定よく保持させることができる。

【0009】 従って、従来のように引き出し式のカップホルダをインストルメントパネルに設ける必要性がなく、乗員の拘束手段としてエアバックを採用した場合に懸念される不都合が回避される。また、センタシートバックなどを倒伏させる必要性がないためにシートの構造が複雑になることがなく、シートの外観性および居住性が損なわれることもない。

【0010】 なお、クッション体を凹部に着脱自在に取り付けた場合は、シートクッション上の突起物を少なくすることができ、クッション体を凹部の開口縁に開閉回動自在に取り付けた場合はクッション体の紛失などを回避し、あるいは、表裏反転させてカップホルダとして機能させているクッション体をアームレストとして有効利用することもできる。さらに、クッション体より平面投影面積が小さい小物入れボックスを凹部の底面に凹入形成した場合は、シートクッションの内部に小物入れを構成することができるために車室内の利便性がより高くなる。

## 【0011】

【実施例】 以下に本発明の実施例を図に基づいて詳細に説明する。図1は本発明に係る自動車用シートの第1実施例を示す概略斜視図、図2は同じく格納状態の概略斜視図、図3は図2のA-A断面図であり、図示しない自動車の運転室にドライバシート1とパッセンジャシート2を搭載している。ここに、ドライバシート1をいわゆる一人掛けのシートで構成するとともに、パッセンジャシート2を二人掛けのシートで構成している。

3

【0012】また、バッセンジャシート2のシートクッション3におけるドライバシート1側の端部近傍、つまり、車幅方向ほぼ中央部に位置する部分においてバッセンジャシート2のシートクッション3の座面に凹部4を切欠形成している。そして、シートクッション3と同質の素材で構成されたクッション体5を前記凹部4に表裏反転並びに挿脱可能に嵌着することにより、クッション体5がシートクッション3と協同して座面を形成するようにしている。

【0013】ここに、前記クッション体5の裏面にカップホルダ6を設けている。そして、クッション体5より平面投影面積が小さい小物入れボックス7を凹部4の底面に凹入形成することにより、クッション体5を凹部4に嵌着した状態でもシートクッション3の内部に小物入れようの空間を確保できるようにしている。8はクッション体5の表皮、9は裏板、10はクッション、11は引き出しタブであり、前記裏板9に孔12を開けるとともに、この孔12に連続する凹部13をクッション10に設けてカップホルダ6を構成している。

【0014】以上のように構成した自動車用シートにおいて、カップホルダを必要とする場合は、クッション体5を凹部4から抜き出して表裏を反転させて図1に示したように裏板9を上にした状態でクッション体5を凹部4に押し込む。すると、クッション体5の裏板9がシートクッション3の座面とほぼ同一高さに保持されて車室内に露呈されてカップホルダ6が出現されるために、カップあるいはボトル類をカップホルダ6に挿入して安定保持させることができる。

【0015】また、カップホルダを必要としない場合は図2に示したように表面を上にしてクッション体5を凹部4に嵌合保持させる。すると、クッション体5の表面がシートクッション3とともに座面を形成してカップホルダ6が凹部4内に格納されるために、車幅方向中央部を通常のシートクッションとして利用することができる。

【0016】従って、通常はシートクッション3と協同して座面を構成するクッション体5を凹部4から抜き取って表裏反転させた後にこれを再び凹部4に嵌め込むことにより、シートクッション3の座面にカップホルダを出現させることができる。このために、従来のように引き出し式のカップホルダをインストルメントパネルに設ける必要性がなく、乗員の拘束手段としてエアバックを採用した場合に懸念される不都合が回避される。

【0017】また、クッション体5より平面投影面積が小さい小物入れボックス7を凹部4の底面に凹入形成することにより、この小物入れボックス7に対してクッション体5を蓋として機能させている。このために、従来は有効利用されていなかったシートクッション3の内部を小物入れとして有効利用することもでき、車室内の利便性がより高くなる。なお、本実施例のようにクッショ

4

ン体5を凹部4に着脱自在に取り付けた場合は、クッション体4を反転させてカップホルダ6として機能させた場合にもシートクッション3上の突起物を少なくすることができる。

【0018】上記実施例においてはバッセンジャシート2のシートクッション3におけるドライバシート1側の端部近傍に凹部4を設けているが、シートおよび凹部の構造は実施例に限定されない。

【0019】すなわち、図4は本発明に係る自動車用シートの第2実施例を示す概略斜視図であり、この実施例においてはドライバシートとバッセンジャシートを一体に構成している。そして、車幅方向中央に相当するシートクッション3の中央部に凹部4を設け、この凹部4に嵌め込み保持させたクッション体5を表裏反転させてカップホルダとして機能させるか否かを選択できるようにしている。なお、本実施例のように凹部4をシートクッション3の前縁に開放させた場合は、クッション体5の着脱作業性が改善されるとともに、凹部4の清掃作業性が高くなる利点がある。

【0020】また、図5は本発明に係る自動車用シートの第3実施例を示す概略斜視図であり、本実施例においてはクッション体5を凹部4の開口縁に起伏開閉回動自在に取り付けている。従って本実施例による場合は、凹部4に嵌着保持させたクッション体5を引き起こし回動して表裏反転させることでカップホルダを構成できるために、クッション体5の紛失などを予防できるとともに、クッション体5の反転操作性が高くなる。

【0021】また、本実施例のようにクッション体5を引き起こし回動させて凹部4に隣接するシートクッション3の上面に保持させるようにした場合は、引き起こし回動させたクッション体5をアームレストとして利用することもできる。なお、図示のように凹部4の底面にカップホルダ兼用の凹部14を設けた場合は、この凹部14カップホルダとして機能させてボトル類を保持できるとともに、凹部14を小物入れなどとしても利用することができ、左右一対のクッション体を凹部4の左右開口縁にそれぞれ起伏回動自在に取り付けた場合は、ドライバシートとバッセンジャシートのアームレストを独立させることができるために、居住性がより改善される。

【0022】

【発明の効果】以上の説明から明らかなように本発明によれば、通常はシートクッションと協同して座面を形成するクッション体を必要に応じて表裏反転させてカップホルダを出現させることができるために、従来のようにエアバックの作動時に種々の障害が懸念される引き出し式のカップホルダをインストルメントパネルに設ける必要性がなく、あるいは、センタシートバックなどを倒伏させてカップホルダを出現させる必要性がないためにシートの構造が複雑になることがなく、シートの外観性および居住性が損なわれることもない。

5

6

## 【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明に係る自動車用シートの第1実施例を示す概略斜視図である。

【図2】 図1に示したカップホルダを格納した状態の概略斜視図である。

【図3】 図2のA-A断面図である。

【図4】 本発明に係る自動車用シートの第2実施例を示す概略斜視図である。

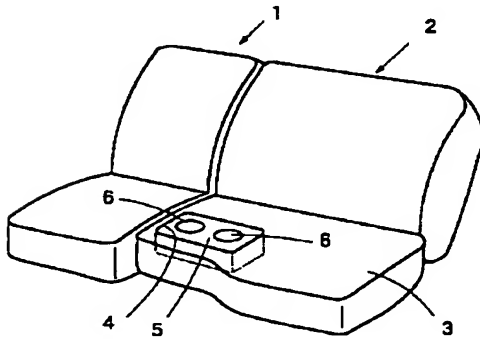
【図5】 本発明に係る自動車用シートの第3実施例を示す概略斜視図である。

## 【符号の説明】

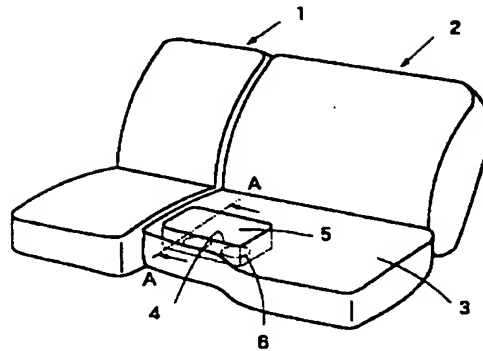
- 1    ドライバシート  
2    パッセンジャシート

- 3    シートクッション  
4    凹部  
5    クッション体  
6    カップホルダ  
7    小物入れボックス  
8    表皮  
9    裏板  
10   クッション  
11   引き出しタブ  
12   孔  
13   凹部  
14   凹部

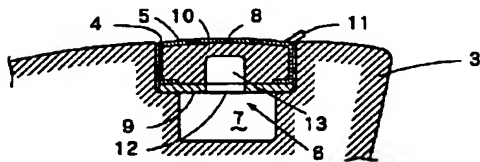
【図1】



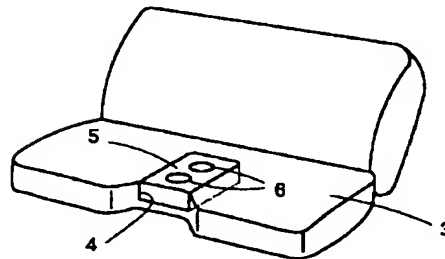
【図2】



【図3】



【図4】



【図5】

